

8週 人間と結ばれた契約

質問 12. 人が創造された時、神が人に行った摂理の特別な行為は何ですか。

答え I 神は、人を創造された後、完全な従順を条件として命を契約されました。しかし、善悪を知る木の実を食べることは、死を制裁として禁じました。

解説

行い契約

創世記 2 章 16-17 節で、神はエデンの園にあるすべての木の実については自由に食べられるようにし、善悪を知る木の実については、食べてはならないと禁じ、食べる時は必ず死ぬと仰せられた。これを「行い契約」と呼びます。アダムは公的な人であったので、人類を代表しているから、この契約は、神がアダムとすべての人類と結ばれたことでした（ホセア 6:7）。

この契約は、神の主権を見せてくれます。神が被造物である人間に来られて、契約を結ばれたことで、神は、人間とご自身とを結ばせ、人間は神に対して結ばれるようになりました。

神が、すべての実は食べて良いが、善悪を知るようにさせる木の実については食べられないようにした理由は、アダムの従順を試そうとしたことです。もちろん

ん、神がアダムに知識と義と聖を与えたので、アダムは自発的に従順することができ、能力もありました。従順すれば永遠に幸いな状態（命の状態）にいるようになり（従って「命の契約」と呼ばれる）、不従順すれば死ぬことでした。ここで明確にすべきことは、従順を通して義となるのではなく、従順を通して、神を愛することを神に証しできるということです。

神の主権

神は人間と、このように契約を結びながら、人間が契約の条件などを移行できる能力も与えました。人間には、内的に義があって従順することができました。そして知識と聖があったので、完全に従順することができました。アダムが造られた時、すでにこのような能力を所有していたので、神がこのような契約を結ぶことは極めて当然でした。人間は無罪状態にいたから、神の法を完全に守ることができたから、行い契約には仲介者が必要なかったのです。そしてこの契約は、神がご自身を低くさせ (condescended) 人間と結ばれたことでした (出3:8)。そして神はご自身を、人間に結ばせました。このように神が人間と結ばれた契約自体は、神の特別な愛を現わすことです。

神の愛に対する人間の応答

神がこのようにご自身を人間と結ばせたので、このような愛を受けた人間は当然、神に従順すべきです。さらにエデンの園において、神が人間に与えられた有益は、言葉で言い表せないほどの貴重なものでした。アダムは神との緊密な交際の中で従順することができました。

人間は、靈魂のすべての能力と機能と、肉体のすべての肢体と部分を、神に仕えるのに使用すべきであった。この従順は、外的な従順だけでなく、内部的な従順として、心の従順として、部分的な従順ではなく完全な従順です。完全な従順

とは、仕方がなくする従順ではなく、自発的な従順を意味します。そして従順する中で、喜びと感謝がその中にあるべきです。これは、言葉と考えと行動において、すべての従順を含めることです。そして完全な従順とは、常に従順することを意味します。

行い契約において約束されたこと

行い契約において約束されたことは、命でした。この命は、自然的な命を含め、霊的命を意味します。霊的命とは、霊魂が神と、結合している状態を意味します。そして、この命は、永遠の命を意味します。体と霊魂が、永遠に幸福の状態であることです。

神に対する不従順

しかしアダムは、神に従順しなかった。彼は、善悪を知る木の実の特性上、自分は不従順したことで、悪に陥っていることを知っていた。つまり、自分は罪によって、悲惨な状態に陥っていることを自ら知ることができた。また、罪によって自分が受けるべき制裁が死であることも知っていた（創 2:17、ロマ 6:23）。アダムの罪は、私たちの罪となり、人間は惨めな状態に置かれるようになりました。

死

神は、罪に対する制裁が死であることを警告なさいました。死には、人間の体が死ぬことと同じ、一時的な死と霊的な死が共にあります。それでアダムとエバは、不従順以降から、常に死の可能性の下に置かれていた。さらに霊的な死は、霊魂が、神から分離され、神の形を失ってしまった状態を意味します。霊的な死とは、人間が安楽して、美しい神の御前と持続する、その方の栄光から除外された状態を意味します。この状態は、神から直接下る怒りを受け、霊魂が最も苦痛

という苦悩の中にいる状態です。地獄で永遠に苦しみを受けている状態を語ります。これから人間には、このような呪いの状態から、救ってくださる仲介者が必要となりました。